

貸借対照表の基本

～記載事項の意味～

平成 31 年 1 月作成



以前、当コラムのコーナーでも財務諸表の話を取り扱いました。コラム No.069 損益計算書と、コラムナンバーNo.011 キャッシュフロー計算書です。そこで今回は貸借対照表についてのお話をしたいと思います。貸借対照表について一言でいうと、期末における「会社の財産債務の状況を表した」ものです。また、損益計算書は会社の一会計期間の収益力、キャッシュフロー計算書がお金の流れを表すものです。

どれも重要な財務諸表ですが、今回からは貸借対照表の構成と、その見方（財務分析）の基礎を簡単にお話します。

まず、貸借対照表の表示形式には「報告書方式」と「勘定方式」がありますが、一般的には右図のような「勘定形式」が用いられています。貸借対照表には(1)会社が保有する資産（財産状況）と、その財産を取得するための資金調達源泉「(2)負債、(3)資本」が表示されます。そしてこれらには(1) = (2) + (3)という等式が成り立ちます。そのため、勘定形式は左右（貸借）が一致している形式で表示されることから、直感的に理解しやすいというのが多く利用される理由の様です。

貸借対照表(B/S)

| | |
|--------------------------------------|------------------------------|
| I 資産の部 1 流動資産 2 固定資産 3 繰延資産 | II 負債の部 1 流動負債 2 固定負債 |
| | III 資本の部 1 資本金 2 利益剰余金 |

貸借対照表に表示される資産の部については①流動資産、②固定資産③繰延資産に区分されます。負債の部については④流動負債、⑤固定負債、資本の部については主に⑥資本金と⑦利益剰余金に区分されます。

①流動資産とは、現金・預金のほか、売掛金・受取手形、短期の貸付金や棚卸資産を言います。通常の営業活動に用いる資産や短期に資金化（決済手段として利用）できる資産です。**②固定資産とは**土地や機械、車両などのほか長期の貸付金や投資目的で長期間保有する有価証券などを言い、短期間に資金化できない又は予定のない資産を言います。**③繰延資産とは**、基本的には実体のないもので、個別の資産価値を有しないものですが、会計の技術的なものとして、主に過去に支出した費用が、長期間にわたり会社の収益獲得に貢献するもの（たとえば開業準備のために要した費用等）を言います。

④流動負債とは短期間に返済する必要がある借入金や買掛金・支払手形等通常の営業活動により生じた債務を言います。**⑤固定負債とは**、一般に長期間の借入金や社債等を言います。これらは短期・長期の違いはあるものの、いずれ返済する必要があるものです。

⑥資本金とは株主が払い込んだ資金を表し、**⑦利益剰余金とは**会社が企業活動により獲得した過去の利益の積み重ねを表します。これらは返済の必要がないものです。

以上の構成割合や内訳をみることにより、その会社の支払い能力や今後返済しなければならない金額、会社が今までどの程度稼いできたかや会社の資産規模等様々な情報を得ることができます。ただし、主に固定資産については、基本的にその資産を取得したときの価格をもとに作成されているため、現在の時価とは数値が乖離していることがある点には注意が必要です。また、これらの数値を一定の算式に当てはめることにより、財務分析を行うことができます。簡単な財務分析の方法については次回お話ししたいと思います。